

# 読売新聞『病院の実力』(脳卒中治療実績)2019/5/19で 当院が掲載されました

(第3種郵便物認可)

2019年(令和元年)5月19日(日曜日)

## 病院の実力「脳卒中」 医療機関別2018年治療実績 (読売新聞調べ)

医療機関名	脳梗塞			脳出血新規入院患者(人) 19年1月現在	脳卒中専門医 (人)
	新規入院患者 (人)	脳血栓溶解療法 (人)	血栓回収療法 (人)		
<b>兵庫県</b>					
順心	1083	58	20	175	5
大西脳神経外科	742	55	51	189	9
<b>吉田</b>	<b>582</b>	<b>35</b>	<b>24</b>	<b>147</b>	<b>6</b>
ツカサキ	457	25	82	103	5
西宮協立脳神経外科	429	24	25	100	5
県立姫路循環器病セ	388	30	14	132	8
兵庫医大	358	23	116	81	8
県立尼崎総合医療セ	337	15	35	124	5
関西労災	316	21	36	136	4
長久	250	15	10	31	2
神戸市立医療セ中央市民	244	73	94	158	9
尼崎中央	228	21	0	38	1
新須磨	219	3	14	48	3
姫路赤十字	213	9	4	61	1
合志	198	16	0	61	2
県立淡路医療セ	137	11	15	86	1
神戸赤十字	136	6	11	60	4
西神戸医療セ	135	3	3	42	4
県立西宮	110	7	5	38	1
笹生	87	5	5	27	1
神戸大	80	6	23	26	12

「セ」はセンター。

全国の調査結果は15日の「安心  
の設計面」に掲載しました。

## 兆候早めの把握が重要

今回は、脳卒中を取り上げた。脳卒中は国内の死因で第3位(2017年)。治療は一刻を争うため、本人や周囲が兆候を早めに把握し、適切な治療を受けることが重要だ。

脳卒中は、脳梗塞と脳出血、くも膜下出血の総称。一覧表では、患者数の多い

兆候早めの把握が重要。脳梗塞は、脳の血管に詰まり、脳細胞に酸素や栄養が行きわたらなくなることで生じる。発症すると、体の片側に力が入らなくなったり、言葉がしゃべれなくなったりするほか、最悪の場合、死に至ることもある。

近年、患者の救命に貢献しているのが、脳血栓溶解療法と血栓回収療法だ。前者は「tPA」という薬で点滴を行い、脳血管に詰まった血栓を溶かす。後者は、ももの付け根の血管からカテーテルと呼ばれる細い管を入れ、患部に詰まった血

栓を取り除く。脳出血は、脳の血管が破れて脳内に出血する病気。高血圧などで動脈硬化が進み、血管がもろくなることで起こる。くも膜下出血は脳動脈にできたこぶ(脳動脈瘤)が破裂した状態で、死亡率が高い。こぶの大きさや形をみて、破裂を防ぐための治療が検討される。日本脳卒中学会が認定する専門医の数は、受け入れ態勢の充実ぶりを知る手がかりとなる。

医療機関名	脳梗塞			脳出血新規入院患者(人) 19年1月現在	脳卒中専門医 (人)
	新規入院患者 (人)	脳血栓溶解療法 (人)	血栓回収療法 (人)		
吉田	582	35	24	147	6